

平成17年度 第3回新南陽地区地域審議会 会議録

- 1 開催日時 平成17年9月28日(水)
開会 16時30分
閉会 20時00分
- 2 開催場所 西部市民交流センター
- 3 出席委員 (1)志賀武男
(2)伊藤禎亮
(3)原田常代
(4)中山哲男
(5)菊地光雄
(6)林 保男
(7)浅海道子
(8)赤星公平
(9)山本正之
(10)橋本忠典
(11)田中靖士
(12)角 成明
- 4 欠席委員 (1)藤井 道
(2)角 成明
- 5 出席職員 新南陽総合支所長 田村俊雄
新南陽総合支所次長 堀常宗城
地域政策課主幹 片山九五
地域政策課課長補佐 岡田健一
- 6 会議次第 富田町3周年、新南陽市制施行のビデオ放映
意見具申の対応について(資料あり)
2年間の地域審議会を振り返って
(地域審議会委員の意見のまとめ)
- 7 会議経過 別紙のとおり

平成17年度 第3回新南陽地区地域審議会

平成17年9月28日

16:30~

西部市民交流センター

審議会閉会后、委員の任期満了に伴い、新南陽地区の市議会議員との懇親会を開催。当日は徳山駅周辺整備特別委員会の研修視察が開催され、3議員が欠席。

新南陽地区市議会議員：出席 炭村信義 立石修 中村富美子 森重幸子
欠席 福田健吾、福田文治、兼重元、友田秀明

てんまつ

事務局：意見具申関係の対応、2年間の地域審議会を振り返って（地域審議会委員の意見のまとめ）の資料について資料を読上げて説明に代える。

会長：伊藤さん、前回ご都合で早く帰られましたが、2年間を振り返って意見がありましたらお願いします。

伊藤委員：和田出身の委員が一人、人口割合では15対1で少ないが面積は広い。和田にいと小さなことも言わないと、過疎地は見捨てられそう。これは和田に限らず、湯野、鹿野もしかり。雑草、積雪などにも行政の力が必要。小さなことでも、皆さんの力を借りながら改善できたらと思っています。

医療のことについても、長沼委員が廃業するといって1年以上経つけれどもどうにもならない状況。今受診されている方に対する、南部の市民病院への搬送等の支援をお願いしたい。和田の総合病院になっているだけに、受診者も多い。3~400人はいるのではないだろうか。

会長：林さんはいかがでしょう。

林委員：福川駅周辺は新南陽市の西の玄関口として整備しようと総合計画にあったはずだが、意見具申の市の意見をみても、住民の移転という大きな問題があり整備計画はままならないというニュアンスである。また福川交番の移転問題もあったが、昨日の新聞には周南西署は廃止するという記事が載っていた。現時点では行政から嘆願が出せるものか、県警の計画どおりに進むのか、周南西署を廃止して富田交番と福川交番で新南陽地域の警備体制がいいものかどうか不安になる。現状はどうか。

支所長：行政としても寝耳に水で、新聞にも地域の意見を聞いてとあるから、統合までには地域の意見を聞くと思われる。当然、自治会の意見や諸々の会や団体の意見を聞くと思われる。

山本委員：署の設置や廃止は県設置条例の範疇。これから地域が高齢化に向か

い、安全安心は大きな問題だと思う。それが周南の合併と絡んだような悪知恵になると良くない。当時宮の前にあった警察署を、富田と福川が陳情して南陽署を誘致した。周南の光署も廃止する、下松署も廃止する、周南も一本にして、重複の無駄を廃止して、交番所の機能も上げて、そういう意味で周南西署も協力してというのであれば、協力せざるを得ない。下関の水上警察署と周南西署だけでは、地域の安全を担保するためにも審議会としてはきちっとしておくべきではと思う。

支所長：新聞報道により、住民の不安があることは、市長には伝えてある。合併したところはそういう方針で行くのか、警察に確認してみたい。市への打診はなかったようです。

林委員：和田の遊休資産について、その後進展があるのかどうなのか。

支所長：食品製造業の話があったが、物流機能の関係から最終的に小郡に進出した。今後は賃貸の活用ができないかと検討をしている。

林委員：この審議会に参加させていただくと、知らないでいいことまで知ることになりますね。

橋本委員：委員の選定について、もっと幅広く、もっと若い人が加わってくるほうが望ましいのではないかと、そしてその人たちが活躍できる時期の市がどうあってもらいたいというのがないと、寂しい思いがする。大人たちが勝手に決めちゃっていいものか、っていう考えを持っている。

会長：どの委員会の年齢構成も、橋本さんが心配される構成になっているようです。一つには選びたくても若い人が参加しない、公募にも応じないという傾向がある。

林委員：開く時間帯もあるが、やり方の問題があると思う。省エネ委員会、大阪の池田市の温暖化ガスの減少対策に対して若い人が意欲を持って会議を進めていた。それから委員の出席率の問題。それぞれの背景を持った方が出ているはずなのに、せっかくのいいチャンスに出席されていない。これは、事務局の要請を促したいと思います。

会長：若い人が積極的にできるような方策は。

中山委員：仕事を持っていると、難しいのでは。以前は社会貢献のようなことであれば、大目に見てくれたようですが、今は年休を取ってといった感じになっているのでは。

角委員：幸い総務で労働関係に携わっているので、こういう場への出席については少し知恵もありましたし、就業規則にありますので申請しますが、会社の会議が入っているとこちらへは出席しづらい。就業時間以降でないとなかなかむつかしいのかなと思っている。私はこじつけてそこまでやったという雰囲気。会社に対して出席依頼があれば、それが最優先される。しかし公募の委員とい

うことになれば、好きでやってる風にしか見られない。

橋本委員：会社も公のものですからね。わたしとしては委員は半公人と思える。

会長：夜開くこともかんがえられるが、そうすることによって効果があがるのか、これも一概には言えないし、新南陽の出席率は、一名を除き案外いいほうではないかと思っている。